

徳島県環境審議会環境政策部会 平成16年度第1回会議 会議録

- 1 日時 平成16年11月18日(木)午後3時から午後4時30分まで
- 2 場所 徳島県庁10階大会議室
- 3 出席者 委員19名中15名が出席
(1号委員:学識経験者、50音順、敬称略)
池田早苗委員、池田隆行委員、岩井博委員、樫本幸実委員、鎌田磨人委員、近藤真紀委員、桜井えつ委員、竹内久委員、唐渡義伯委員、中村英雄委員、藤岡幹恭委員、藤村知己委員、松橋利江委員、森逸子委員
(2号委員:市町村長又はその指名する職員、敬称略)
島田泰子委員(代理:待田課長)
(事務局)
田村環境局長、村上環境局次長ほか
- 4 会議次第 (1)開会
(2)あいさつ 田村環境局長
(3)議事 徳島県環境教育・環境学習推進方針(仮称)のあり方について
(4)閉会
- 5 会議資料 徳島県環境教育・環境学習推進方針(仮称)のあり方について
環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本的な方針(全文)

議事概要

【事務局】

徳島県環境審議会環境政策部会を開会する。本日の出席は15名なので、当部会委員数19名の過半数を超えており、徳島県環境審議会運営規程第7条第3項の規定により、この会が有効に成立していることを報告する。

【環境局長】(あいさつ)

【事務局】(資料確認)(以後は藤岡部会長が議事を進行)

(各自が自己紹介)

【部会長】

最初に部会長として、こういふうな議論をしていただきたいという願いをしたい。政府は既に環境教育基本方針を定めており、それを各地方自治体もつくることになっているが、やはり徳島でできることをや

ろうということが一つ。それから、やるからには楽しくやろうというということ。義務感だけではなかなか人間は動かない。やはり県民やボランティアが動くということにならないといけない。みんなにやってもらうためには楽しいことを考えたらいいと思う

また、環境教育というとすぐ小学校から大学までの学校のことと思いがちだが、環境問題についてはむしろ社会人になってからの教育というか、年齢層を問わず県民みんなに興味を持ってもらう行動してもらうということが非常に必要だと思うので、環境教育について議論する際には、学校だけを念頭に置かずに議論した方が良くと思う。

今日は第1回目なので、自由に発言願いたい。まず事務局から総会で言わなかったことを中心に説明してほしい。

事務局】(補足説明)(政府の基本方針について)(審議のスケジュールについて)

委員】

国の方針では一通り全部必要なことはきっちり書いてあるので、徳島県も同じことをしたのでは、あまり意味がない。徳島は特にこれに力を入れてやろうということを考えた方がいいと思う。

委員】

環境教育の中にもいろんな分野があるが、生活環境に係わる部分や自然環境に係わる部分などが具体的にどう体系づけられる可能性があるのか。どこが強いのか、あるいは逆にどこが足りないのか、具体的には生物環境に関しては全然足りないとは思っているが、そういうところを強めていくためには何が必要かという問題分析をまずしてほしいし、したいと思う

どう環境教育があり、それをどこで進めているのか、あるいは誰がやっているのかということについて、これは県の行政でやられているものだけでなく、NPOや団体がやっている観察会なども含まれるが、具体的に県内でどうい形で誰がどんなふうに環境教育を進めているかというデータベースがないのなら、その整備も方針策定の課題に入るのかもしれない。また、もしそういったものが現在あるのであれば、そういうデータベースも使いながら問題分析ができればいいと思う

部会長】

配付資料にある県が作成した事業の一覧などはちょっと横に置いておいて、我々は、やらなければいけないことを議論すればいいと思う。

委員】

確かにそうだが、実際にどれくらいあるのかを調べて、資源として活用できるものは活用したらいいと思う。もちろんそれに縛られる必要はないし、新たに立ち上げるものも必要だと思う。ただ現状がどうかを知っておきたいということだ。

委員】

環境教育に関して、どこに行ったら情報が得られるのか分からない。同じテーマでもレベルや内容、方法が非常に多種多様である。環境教育に取り組みたいという個人あるいは団体など、情報を求める人に対して十分応えられるような、情報を発信できる基幹システムが非常に重要だと思う。合わせて教育プログラムなどの開発も重要になってくると思う。誰がそれをつくるのかということが、非常に大きな課題として残るとは思うが。

委員】

現在徳島県の環境局で環境教育の窓口になってるのはどこなのか、私自身も知らない。事務局から教えていただけると有り難い。

事務局】

環境教育 環境学習について知事部局で窓口になっているのは、環境企画課の環境啓発担当だ。そういうことは我々も必要だと思っているので、そういうことも審議していただいて、方針の中に何らかの形で定めていただければ大変有り難い。

委員】

何事においても基礎的な学習というのがすごく大事だと思う。例えば大人の生活習慣病に関しても、成人してから教育してもなかなか元へ戻らない。子供の時代に生活習慣改善の教育をしておくと、10年先20年先にはよくなると推測している。環境問題に関しても、総花的にターゲットとするよりは、徳島県独自のこととして、小児期や学童期の環境教育に重点をおくのもいいと思う。子どもがごみの分別をすれば、母親もするし、おじいちゃん、おばあちゃんもするというような、逆の循環もできると思う

委員】

農家の立場からいうと、やはり環境というのは悪いことが蓄積されて、それが例えば地下水に出たりするというのがあると思う。そういうことを若い年代の人に教えていった方がいいのかなと思う。それと年上の人が、子どもがやっていることを見習うというようなのもいいのではないかな。

委員】

小さい子どもの時からの教育が大事だと思う。そういう人達に、ここへ行ったらこういう要請をきいてもらえるという窓口をきちんと定めた方がいいと思う。それから、小さい子どもさんを持っているお母さんをターゲットにすることも大事と思う。

委員】

NPOやボランティアの人や住民がいかに動いていくかが大事だろうと思う。そこが動かなければ、どんなことを書いても、県で何を考えても無理だろう。ネットワーク化をして、みんなが本当につきあえるような形の環境ボランティアのネットワーク化ができれば、個性があって中身のあるものができると思う。それができなければ、何を書いても実現は難しいだろう

【委員】

いろいろなボランティア活動があるが、確かにそれがネットワーク化されていない。中村さんのところでは、環境問題に取り組む前に必ず楽しいことを一緒にしている。楽しみながら、あるいはお祭りのイベントの一つとしてごみ拾いをするなど、よく考えてやっておられる。そういう活動をネットワーク化する、別の言葉で言えばシステム化することが大事だと思う。確かにいいことをいっぱい書いているが、現実はどうするのかということになると、みんな行き詰まる。動きやすいシステムづくりが一つの大きなテーマではないか。

【部会長】

ターゲットを子どもにするというのは一つの手だと思う。今、環境問題に一番関心がないのは30代、40代、50代。おじいちゃん、おばあちゃんの代になると環境といわなくても、もったいないことはしてはいけないとか、そんなに薬つかっていいのかななどと、昔の生活をやれば割合環境に優しい生活になる面もある。だから、子どもとおじいちゃん、おばあちゃんとをどうなくかというふうに考えないといけない。子どもだけやっても親が動いてくれるかどうか。30代、40代、50代が動いてくれるかというようなことがある。子どもだけターゲットにして、子どもがものすごく環境にいい姿勢で生活しているときに、その子たちが大人になるまで放っておいていいのだろうか。ターゲットを決めることはしない方がいいのではないか。ただ、大事なターゲットが子どもであることは確かだ。

【委員】

家族ぐるみで取り組むというのが一番自然だろうと思う。子どもだけとか、ある年齢層の人だけではなく、家族ぐるみでやるのがいい。家庭の雰囲気がそうになると、子どもが親に注意するようになってくる。次世代を担うのは子どもだし、やはり幼児教育から入っていくのが一番いいと思う

【委員】

例えば図画の募集、標語の募集、作文の募集というのが環境に限らず、各部局からそれぞれに学校へ依頼される。夏休み前には募集要項がいろいろ送られてくる。必要と思われるもの、あるいはこれは子どもにとっていいと思うものを学校で選択して家庭に持って帰らせているが、新聞のちらしのように扱われていることもある。

今の学校の現状としては、平成14年度から総合的な学習が始まった。それより10年前、平成4年頃には文部省から環境教育の資料などが出ている。平成14年度からは環境が整い、自分たちで計画し、自分たちで考えながら問題を解決していくような内容の学習の一つとして環境学習がある。私どもも新町川

を守る会の中村さんを講師に招いて学習したりしている。

ただ、文部省や県教委から次々と事業がきても、予算や人の配置がほとんどない。実際に子どもが地域へ学習をしに行く場合でも、スタッフが足りない。30人、40人の学級が二つのグループに分かれて行くと、担任ともう一人必要で、5クラスもある場合には、一緒に展開するのが難しい。たくさん言われてもなかなかできないというのが今の学校の事情だ。これからの地球のことを考えると、よい環境を整えていこうという学習は必要だが、体験的な学習が十分に展開されていくような状況ではない。しかし、できる範囲で取り組んでいるので、新しい課題などをこの場で審議して、子どもが取り組めるようなものがあったら、どんどん取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

環境問題もそうだが関心のある人ばかりでやっている。こういう人は放っておいても実は何ら悪い影響を与えない。問題なのは全然関心がない人だ。いくら取り組みをしたり、本を出したり、新聞に記事を書いたりしても、全然関心がない人がいる。つまり見えていない。そういう見えてない人達に対してどうアプローチしていくのか。例えば、子ども達は環境問題が非常によく分かっている。しかしさっき言われたように30代、40代、50代で社会の中心で動いている人たちは、ほとんど関心がない。関心のある人は現実の社会では少数派である。こういう人が少数派でないようにするためには、ほとんど関心がない人達に対してどうやって情報を流していくのか、どういう施策があるのかということを考えないといけない。本当はここに来ないような人達にインタビューなどして、どういう問題があるのか聞かないと、問題が見えないような気がする。

それから、情報があふれている割には肝心の情報がどこへ行ったら手に入るかが分からない。例えば燃えるごみは焼却炉で燃やしているのは分かるが、では燃えないごみはどうしてるのかというと、ほとんど分からない。ガラスと陶器とプラスチックをどうやって分別しているかなど、分からない点がいっぱいある。

関心がない人達に対してどう政策を実行していくかということと、現実にはこれだけ情報があふれている割には肝心の情報が全然手に入らないということはどうするのかという、この二つが大きな課題になってくるだろうという気がする。

【委員】

自主的に環境教育をしたいというグループは沢山あるし、やってあげたいというグループも沢山ある。でもどうしても分からないというところで止まっている場合があって、そこを少し風通しよくすると、いろんなところで動く。そういう意味では中村さんがおっしゃるように、どういふふうにネットワークをつくるかということと、ネットワークをつくるためにどういふ後押しができるかということがとても重要だと思う。やりたいけれどできないのは何故かということについて、やりたいと思っているグループからインタビューなどして、何が足りないのかということをもっと分析してみることが、動きはじめる第一歩だと思う。

また、全然関心がない人に対しては、全然違うアプローチをとる必要があると私も感じている。

委員】

企業では、ISO 14000でマネジメント化するなどして環境教育を行っているが、家庭でもやっているかどうかは分からない。自分が家庭に帰った時にはごみの分別方法が分からないのに、会社へ行くと全部できていたりする。

それから、環境教育の面で企業がすることはどんどんやっていくべきだと思う。ただ、いろんな方々が見学に見えられた時に、企業の全部を見せたいが、やはり危険な場所もあるので、なかなか一概にはいかない。また企業の側から率先して教育の場へ入っていくということも必要になると思う。

委員】

無農薬と有機肥料で家庭菜園を作っているが、どうしても虫がわくし、腐葉土を作ればイノシシが来て荒らされる。予防策があったら教えてほしい。

邸会長】

提案だが、バラバラに議論をしてもうまくいかないと思う。政府は法律に第8条で地方自治体の方針をつくるように書いてあるが、最初池田先生から提案があったように、徳島で何をやるのか、何をやるべきなのかという論点で議論したい。

環境にも地球温暖化やごみ問題、産業公害などいろんな分野がある。具体的な行動まで考えて議論した方がいいと思うので、しばらくの間は徳島としてこの分野のことをやったらどうか、この分野のことをこうやった方がいいんじゃないかというようなことを議論していただくと話がまとまりやすいと思う。

いくつかの環境分野でこういうことをやったらどうだろうかということ具体的にまず考えて、それを方針としてどう書くのかを考えたい。方針の文章を先に議論していると総花的になり、政府の方針と同じことになる。徳島でできること、徳島でやらないといけないことは何かということをもまず考えてみたい。

委員】

一通りの項目はどうしても載せて形を整えるけども、徳島では特に力を入れるのはこの分野だということをお皆さんに提案していただくと議論していったらいいと思う。

委員】

環境問題で一番問題になっているのは産廃の問題だろうか。至急解決しなければいけない問題というのを優先して、あんまり問題にならないものは後にするべきだろう。

邸会長】

私は個人的にはごみだと思う。それぞれの人に全部関係があって、なおかつ放っておいたら大変なことになる。ごみが環境問題全てではないが、みんなが参加でき、なおかつ焦眉の急だ。また、取り組むと目に見えてよくなることが分かる。

【委員】

ごみ問題を河川などに関連させて解決するのが、環境意識を高めるのに一番手っ取り早い方法だ。新町川を守る会などが実例だ。短い期間にずいぶんきれいになった。イベントをしながらごみ拾いをするのが徳島では一つのモデルケースになっている。水環境をきれいにすることは、我々が日常飲む水をきれいにすることだということを体で分かってもらうことが大事だと思う。

我々が日常的に本当に必要なのは、まず、いい空気を吸いたい、それからきれいな水を飲みたい、それから栄養のある美味しいものを食べたい、それから着る物、それから住まいというような順番になっているのではないかと。一番身近に感じられるのは、空気を別にすればやはり水だと思う。資源としての水もあるし、水環境もある。ごみや廃棄物や排水問題も絡んでくる。

大阪や東京と徳島の水道水の違いは飲めば分かると思う。自然のきれいな水が徳島にはこんなにあり、そういう環境はいつまでもきれいに保存していかないと、いい水が飲めなくなることを体で覚えさせる方向が大事ではないか。

【委員】

水やごみも大事だと思うが、一番おざなりにされているのは生き物だと思う。水質をきれいにすることは、生態系機能だし、それを支えているのは生物多様性であると思う。身近な生物がいなくなっていることに気づいていないということ自体が大きな問題である。生き物の問題というのはすごく見えにくい形で進んでいるが確実に進んでいるということをもっとはっきり表に出るような形でアピールしたり、継続的に改善されて100年、200年単位で続いていくような何かを提供したりすることはすごく大事なことだと思う。生き物はどのような場所でも対象になる。きれいな場所が非常に汚れている場所か、どういう地域を対象にするかによって見方が変わってくるが、基本的にはそれを構成している生き物が必ず入るべきだと思う。それが、いろんな分野で徳島の中では一番抜けているし遅れていると思う。

【部会長】

考え方を変えると、東京や大阪ではできないけれども、まだしも徳島ではできる話だと思う。大阪の人が徳島へやってきたら、あれ、まだこんなに残ってるのかと。

【委員】

生物環境にしても自然環境にしても、大阪や東京で復元目標にしているような環境が徳島には沢山残っている。でも基本的に情報というのは大都市から入ってくるので、一回あるものを破壊した上で再度再生するというようなことをずっとやり続けている感じがする。いま実際に身の回りには何かということをちゃんと認識できるような仕掛けというか、仕組みがつけられたらいいと思う。

【委員】

ピオトープという言葉は昔はなかった。昔はドジョウやメダカやフナがたくさんいる水環境があって、子どもは生き物を大事にしないといけないというようなことを自分で学んだ。徳島にはまだそういうところが残っている。そういうところを皆さんに知っていただき、生態系というものを身をもって知ることができるようにすれば、教育効果は大きいのではないか。

【委員】

どれもこれも大事な問題だが、環境ボランティアのネットワーク化をどれだけ支援していくかだろうと思う。それから、いかに楽しくするかということ。そうすればたいたいのことは解決すると思う。楽しければ継続していく。格好悪いことが今、格好いい。ごみ掃除をするのは格好悪いようだが、格好悪いのが一番格好いい。そうすれば誇りを持って楽しく掃除できると思う。

【委員】

徳島で誇れるものとして、もう一つ上勝のごみ処理問題がある。限られた地域だからできているのか、コミュニケーションの図りやすい集落であるからできているのか、あるいはもっと県内に広げられるような内容のものかどうかなど内容を知りたいと思う。自分の生活を考えると、あのような分別が実際にどこまでできるだろうか考える。

【部会長】

上勝町には行政と住民との間に信頼関係がある。それから分別するには、ものすごく労力がいるが、上勝町ではそういうことをやれる人が少ないけれども地域に残っている。それをうまく盛り上げて楽しみながらやっている。あの方式が例えば徳島市に適用できるかといったらそうではないが、参考になることは確かだ。やはりその地域の特性でできることを考えないと、上勝の方式がいいから全県でやれるかといったらそれはいいかない。それこそみんな楽しんでやってくれなくなる。

【委員】

徳島というと阿波踊りが有名だが、徳島にホタルがいっぱいいたら、例えば夜に阿波踊りを見に来た人がいいなと思うのではないか。

【委員】

川に海水が入っているので、ホタルは無理だと思う。徳島城博物館では水を張って毎年ホタルを養殖している。餌として川蜷というのが必ずいる。例えば海部町の母川の底にいっぱいいる。

【委員】

ピオトープでそういう環境を作ろうとしている例がある。トンボ公園も流行た。板野郡の大谷川へ行くと、今でもいくらかでもホタルがいる。

【部長】

川蜷を増やしてホタルを育てるのは自然に反するという人もいる。人為的にそういう環境をつくるのではなく、自然に動植物が生き生きと生きていくような形にどうやって復元するかの方が大事だという意見もある。

【委員】

いなくなったところで復元するよりも、むしろ、なぜいなくなったのかということがちゃんと分かることが大事だ。なぜいなくなったのかということがみんなでちゃんと分かって、その上でどうするのかということが自分のものになっていくことを目標にするべきだと私は思う。メダカを飼ってあちこちに放流するのは例えば遺伝的な攪乱が起こって、本来の自然にはよくないということをきちんと知っていくことも環境教育の一部だ。ホタルの発光パターンには方言があるから、ホタルを郵便で送るのは、ホタルの遺伝子をばらまくことになる。関西弁で喋ってるやつを関東に持っていくことは彼等にとって困るということを知った上でやる、それが基本的な自然環境教育であると思う

関西と東京ではホタルの発光パターンが違う。メダカも水系ごとに遺伝的な組成が違うといわれている。関西の方が早口だったかな。そういうことをちゃんと知ることができるような仕組みを持った環境教育にしていかなければならない。

【部長】

ものすごく変なことを言うと、イノシシが出てくるというのはいい環境。東京には皇居の中にいるらしい。まだ自然が沢山残っているということ。

【委員】

無農薬で野菜を一生懸命つくろうと思っても、自然にするとイノシシが好んでミミズを食べに来ると言われてできなかったりする。

【部長】

イノシシにしてみたら、何百年も前は俺らの領地だったところを畑にするのはけしからんというかも知れない。冗談だが。

【委員】

昔の人はイノシシやサルが食べる分として余分に作ってあったという話がある。

【部長】

自然の大切さを子どもの時から知ってもらい、それを楽しんでもらうことは非常に大事なことだと思う。問

題は、それをどうい手法でやるか。ホタルを飼うのもそうかもしれないが、生態系や遺伝子を乱さない形でできるかどうかということもあり、非常に難しい。みんなが、なぜこうなったのか、またそれを元に戻すのはものすごく難しい、ということを知るだけでも、少なくとも自分は環境を壊すのはやめようということにつながる。

【委員】

自らが住んでいる地域そのものに興味を持つということだと思う。ピオトープづくりもあちらこちらで進んでいるが、周りに水田や用水がたくさんあるのにも関わらず、池を掘ればいいと思ってつくっているところもある。もっと周囲を見渡して、その中でここでは何をすべきかというのを自分たちで決めていくことができる、あるいは工夫ができるように、その後押しをどうするかということが求められている。

【部会長】

自然農法をやるうと思って、周りが有機肥料をいっぱい使い、農薬をたくさん使ったらたまらない。ある程度の地域のまとめみみたいなのが大事になる。

【委員】

やはり自分一人ではできないということ。いい農法だといわれている天敵農法、天敵防除というのがあがるが、実際にはその場所に住んでいない虫を使うので、本当にいいのかということが話題になっている。動物を基本に考えていくというのは一つの手かなと思う

【委員】

賛成意見として加えさせていただきたい。ごみと自然というか、気候変動枠組み条約と生物多様性保全条約の二つが基本だと感じている。生き物を介して考えていくと、全てにつながっていくと思う。

徳島ならではのということなら、今残っている自然をこれ以上減らさないようにするということがまず一番だ。再生も当然大切だが、何よりも一番に今残っている自然をいかに残していくか。あるいは適切に保全、保護して利用していくかということがすごく大事だと思う。一度ドジョウがいなくなれば、どこから持ってこない自然にやってきてくれない。今は水路がつながっていない。田んぼと田んぼをつなく、あるいは川と田んぼをつなくという機能がほとんど消失している。生き物を中心にした切り口で今の徳島の自然環境をどう残して未来につないでいくかということを整理すると、何か面白いものができる気がする。

【部会長】

取りあげる分野は、今日完全に絞る必要はないと思うので、次回までにもう少しこの話を皆さんに考えていただきたい。徳島県の環境基本計画には、徳島の条件を踏まえた環境問題について書いてあるし、環境首都とくしま憲章のトライ21にも具体的行動を書いてあるので、この二つを参考に、我々が諮問された徳島での環境教育というものを、どの分野でどういう方向でやるかという考えをまとめていただきたい。

政策部会として議論する以上、ある程度の幅と広がりを持って議論しないといけないが、政府の基本方針をそのまま写しても仕方がないと思うので、徳島としてできること、やらねばならないことという物差しでお考えいただければありがたい。

次回会議は、12月開催の可能性を探ってもらいたい。できれば次回は複数の環境分野をある程度絞りたいと思う。忙しくて来れない方は、文書、手紙、あるいはメールなどで事務局に自分の意見や考えを伝えていただきたい。勝手に押しつけたような議論で進行して申し訳ない。日程調整の方は事務局でよろしくお願ひしたい。

【環境局長】(あいさつ)

以上